

施策評価シート

幹事部局

環境生活部

施策の名称	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用
施策の目的	心豊かに暮らすために身近な自然環境を保全し、また、人々の活動の舞台として、歴史・文化で彩られた自然景観や色々な動植物が生きる自然環境の魅力を活用します。
施策の現状に対する評価	<p>①(自然保護に対する県民意識の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアや地域住民が連携して活動を行うことで、自然保護に対する県民意識は高まりつつある。鳥獣保護については、計画的に保護区を指定している一方、農作物被害等により住民理解が得られにくくなっている。宍道湖・中海の認知度や利活用促進に係る県民の意識・理解が十分ではないため、両湖の価値や魅力を伝える情報発信の強化が課題である。 <p>②(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習施設等では、企画展や自然とふれあいイベントの開催等により自然観察や環境学習の機会創出に貢献しているが、新型コロナの影響及び施設の老朽化、施設の魅力が十分認知されていないことなどから、入館者数等は減少傾向にある施設が多く、増加に向けた取組が課題である。 <p>③(自然の活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用促進を図るため、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援しているが、積極的な活用が充分ではなく、効果的な支援が課題である。 ・ 隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、認知度不足等により交流人口などの具体的な数値に結果が表れていない。ソフト・ハード両面の受入環境整備や、情報発信を通じて誘客増に向けた取組の継続が課題である。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然保護団体による保全活動や自然観察会を支援することで、活動の活性化や自然環境の保全への関心度の向上を図っている。 ・ 各施設においては、展示施設などの施設・設備の整備を行うことで魅力向上を図るほか、施設や自然の魅力をPRするため、展示の工夫やメディア、SNS等の活用、関係機関等との連携した広報などの取組を行っている。 ・ 各施設では、パネルの館内掲示やパーティションの活用、自動改札機の導入等により感染症対策を実施している。
今後の取組の方向性	<p>①(自然保護に対する県民意識の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの育成研修や保護活動の実施・参加への呼びかけを継続し、担い手育成と人材の掘り起こしを行う。また、生物多様性への理解促進や持続的な保全活動が可能となるよう、県民の関心度や意識の向上を図っていく。 ・ 鳥獣の被害対策と保護管理を両立するため、生息動向の把握に努め、保護活動や被害対策の事業を実施し、住民理解を得るよう努める。SNSの活用や関係機関と連携した情報発信により、宍道湖・中海の認知度向上と利活用促進の機運を醸成する。 <p>②(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然公園や三瓶自然館、宍道湖自然館、しまね海洋館、花ふれあい公園の各施設においては、新たな魅力を感じてもらえるよう、施設の整備や、展示・パフォーマンス等の内容進化、関係機関との連携による情報発信の強化などに取り組み、利用者の増加を図る。 <p>③(自然の活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウィズコロナを前提とした商品の磨き上げや販路促進等、民間団体の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、プログラム造成等の支援を推進する。また、隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、ユネスコによる4年に1度の再認定に向けて必要な環境整備を行うとともに、ガイド養成など観光誘客の取組を強化し、認知度及び来島者の満足度向上に繋げる。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	県立しまね海洋館の管理運営	県民及び県を訪れる人々	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。	518,004	498,920	しまね暮らし推進課
2	自然保護のための情報収集・整理事業	県内の自然情報	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。	3,169	3,022	自然環境課
3	自然環境保全地域の保全事業	自然環境保全地域の自然環境	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。	957	1,056	自然環境課
4	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	レッドデータ生物の生息・生育環境	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する	3,143	11,390	自然環境課
5	県民参加による自然保護活動事業	県民や地域の活動団体	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。	3,054	3,812	自然環境課
6	自然公園管理事業	自然公園利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	62,438	52,585	自然環境課
7	中国自然歩道管理事業	中国自然歩道の利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	6,912	7,044	自然環境課
8	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	489,492	589,566	自然環境課
9	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る	64,722	142,739	自然環境課
10	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す	109,926	136,205	自然環境課
11	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。	5,722	8,669	環境政策課
12	野生鳥獣保護対策事業	野生鳥獣	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。	194,394	276,364	農林水産総務課
13	花ふれあい公園事業	県民	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興	90,961	85,845	産地支援課
14	穴道湖自然館管理運営事務	一般来館者、一般県民	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	152,141	123,938	水産課
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

しまね暮らし推進課

事務事業の名称		県立しまね海洋館の管理運営			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。		518,004	498,920
			うち一般財源 (千円)	459,503	391,620
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発等を行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を実施 施設の円滑な運営に向け、指定管理者である公益財団法人しまね海洋館との連絡調整や、老朽化した備品等の更新・修繕を実施 感染症対策を取りつつ施設の魅力向上を図り、入館者数の回復・拡大につなげるため、屋外テント及び両生類・爬虫類コーナーの改修を実施 施設の脱炭素化を図るためLED照明を導入 施設の適切な管理運営につなげるため、障がい者福祉施設へ調剤業務を委託し、スタッフを確保 特別支援学校と連携したりリモート校外学習の実施等、多様な学習の機会を提供 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数の回復・拡大を図るため、プロジェクションマッピングやクラゲ水槽等の新たな設備を導入するとともに、主に県内及び山陽地区に向けたテレビやWEB等の活用や、関係機関との連携によりリニューアル広報を実施 施設設備、備品の計画的な更新に加え、自動改札機の導入等により施設の感染症対策を実施 				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	III-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立しまね海洋館の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		36.2	36.2	36.2	36.2	36.2	万人	単年度値
		実績値	34.6	20.9	25.4					
		達成率	-	57.8	70.2	-	-	-		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館(休館期間:1/27~2/20(25日間))により、前々年比で1月:8,904人、2月:11,508人の減 近隣の同感染拡大の影響を受け、入館者数が前々年比で4月:11,622人、5月:24,103人、8月:42,232人、9月:16,053人の減 県内や近県からの修学旅行生等の受入の増 R3年度:319件 20,463名(R2年度:219件 11,852名) 感染症対策を取りつつ、学習機会の提供として各種教育活動の受け入れや出張講話等を実施 R3年度:211件 8,062名(R2年度:148件 4,708名) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策として、自動改札機の導入による業務の非接触化や、アクアス独自の対応ステージの策定及びシロイルカパフォーマンスの入場予約システムの導入による密対策を実施することにより、新型コロナウイルスのクラスター等は発生していない状況 入館者の安全確保と入館者数の回復・拡大を図るため、演出が可能な照明等の整備を含む特定天井改修工事を実施 施設の魅力アップを図るため、プロジェクションマッピングの導入やクラゲ水槽の新設を実施
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数が減少傾向 施設の魅力及び認知度の向上が不十分 周辺団体等との一体的な取組が不十分
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる移動や外出制限の影響 他地域で新たな水族館の開館や、リニューアルが行われており競争が激化 施設の老朽化及び生物の管理・展示等に必要な備品等の不足 パフォーマンス等の恒常化 施設の認知度向上のための戦略的な広報が不十分 周辺その他施設や団体等と連携した取組が不十分
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の現況把握と長寿命化計画による老朽箇所の修繕 計画的な備品等の購入・更新 パフォーマンス等の内容進化 公園敷地内の大規模遊具の更新等を踏まえ、周辺の資源等を活用した効果的な広報等を実施

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然保護のための情報収集・整理事業			
目的	誰(何)を対象として	県内の自然情報	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。		3,169	3,022
			うち一般財源 (千円)	3,169	3,022
令和4年度の取組内容	生物多様性の主流化の実現に向け、自然環境保全施策を推進するために、県内に生息する多種多様な野生動植物及び地理に関するデータを収集・整理する。 島根県自然環境保全条例に基づく県内6箇所の環境保全地域及び保全計画に関するデータを整理し活用する。 島根県立自然公園条例に基づき変更した公園計画及び公園事業に関するデータを整理し、活用する。 開発事業者に対して希少な野生動植物及び公園区域、保全地域に関する情報提供を行うとともに、その保護に関する指導を行う。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・希少な野生動植物を保護し良好な自然環境を保全するため、自然環境保全地域の区域の情報をGISデータとして整備し、今後の活用及び情報提供に向けて整備を行う。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4	62.8					
		達成率	—	103.7	89.8	—	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県自然環境保全条例に基づく許認可件数(令和3年度 3件) ・自然公園法及び島根県立自然公園条例に基づく許認可件数(令和3年度 50件)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・開発事業者等からの問い合わせ(事業区域内における公園区域の有無や希少野生動植物の生息・生育の有無、影響の回避低減)に対して、的確に対応した。 ・国立公園、国定公園、県立自然公園の公園区域及び利用計画に基づく施設を統合型GIS上に整備し、保全すべき区域を速やかに判断できるようになった。 ・自然環境保全地域について統合型GISに登載し、保全すべき区域を速やかに判断できるようになった。
課題分析	① 課題	・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 ・国定公園の公園計画や島根県立自然公園条例の公園計画に関するデータが適正な公園利用につながない。
	② 原因	・上記①(課題)が発生している原因 ・国定公園、県立自然公園事業について、公園計画書のデータ整理が十分されていない。
	③ 方向性	・上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・国定公園、県立自然公園に係る情報を整理し、公園計画書をホームページに掲載し適正な公園利用につなげる。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然環境保全地域の保全事業				
目的	誰(何)を対象として	自然環境保全地域の自然環境	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。		957	1,056	
			うち一般財源 (千円)	957	1,056	
令和4年度の取組内容	「島根県自然環境保全条例」に基づき指定している「島根県自然環境保全地域」の適正な保全を図るため、地元の保護育成団体等に保護管理を委託するとともに、自然保護指導員を配置し、巡視活動等を実施する。					
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	地元ボランティア団体からの提案による施設整備事業を、団体に委託することにより看板等の施設の修繕を実施する。					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度 値
		実績値	61.3	67.4	62.8					
		達成率	—	103.7	89.8	—	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・自然保護レンジャーや行政機関職員等の協力により地元保護育成会の活動を支え、自然環境保全地域の環境保全が図られている。
課題分析	① 課題	・希少種の保護を担っている地元保護育成会の活動の縮小が懸念される ・専門的知見に基づく保全活動が行われていない
	② 原因	・人口減少と高齢化により、地元保護育成会の担い手が減少 ・「自然環境保全地域」の周知が十分でなく、その希少性が伝わっていない ・専門家による保護・保全状況の把握が十分なされていない
	③ 方向性	・自然保護活動の新たな担い手となり得る人材の育成と継続的な研修の実施 ・地元育成会と自然保護レンジャーの連携を図る ・自然科学系博物館からの職員派遣により保全活動の状況を確認し、より効果的な保全活動の実施する ・「自然環境保全地域」の周知に努め、自然保護活動の実践者の増加を図る

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業			
目的	誰(何)を対象として	レッドデータ生物の生息・生育環境	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する		3,143	11,390
			うち一般財源 (千円)	2,013	7,490
令和4年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の主流化に向けて、県民の自然への関心度向上に向け、希少野生動植物の普及啓発を行う。 ・「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」で指定している希少野生動植物について、生息・生育環境の調査を実施し、地元住民等関係者と連携した保護対策を実施する。 ・開発事業者に対して希少な野生動植物に関する情報提供を行うとともに、その保護に関する指導を行う。 			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		平成25、26年に改訂したレッドデータブックを、令和7年の完成を目指して改定作業を開始する。			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4	62.8					
		達成率	—	103.7	89.8	—	—	—		
2	指定希少野生動植物の指定数【3月末時点】	目標値		5.0	5.0	6.0	6.0	7.0	種	累計値
		実績値	5.0	5.0	5.0					
		達成率	—	100.0	100.0	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物について、関係機関および地元住民を中心とする保護巡視員・団体等で巡視活動を定期実施。 ・生物多様性に関するリーフレットの作成、新聞広報を実施。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の劣化(開発や乱獲などによる生物の種の減少・絶滅、生息地の環境劣化) ・自然の魅力を伝えられる人材や保護巡視員、自然保護レンジャーの高齢化
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドデータブック掲載種などの希少野生動植物の保護や自然環境の保全に関する県民の関心度が十分に高いとは言えず、特に若い世代の自然保護等に対する理解が得られておらず行動に反映されていない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドデータブックの改訂により、現状の基礎調査を実施し、指定種の追加検討や保全体制づくりを実施。 ・「しまね生物多様性地域戦略」の普及(レッドデータブックの周知や自然保護活動の紹介、自然観察会の実施)などにより、県民の自然環境の保全への関心度や意識の向上を図る。 ・関心度向上により、将来の保護活動ニーズ(巡視員やレンジャー等)の掘り起こし。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		県民参加による自然保護活動事業			
目的	誰(何)を対象として	県民や地域の活動団体	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。		3,054	3,812
			うち一般財源 (千円)	2,495	2,512
令和4年度の取組内容		自然保護活動団体等が行う自然保護活動や自然体験活動への支援を行う。 自然保護レンジャー等へ各種情報提供などを行い、巡視活動や自然保護活動への参加を推進する。 自然保護ボランティアのための研修を行い、自然保護活動の担い手の育成確保を行う。			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		自然観察の手法を伝える指導員のスキルアップを図るため、研修会を実施し、指導員の技術の向上、活動の活性化、自然保護活動の担い手の育成確保を行う。			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然保護ボランティアの活動日数(年間)【当該年度4月～3月】	目標値		400.0	520.0	1,010.0	1,030.0	1,050.0	人日	単年度値
		実績値	630.0	933.0	992.0					
		達成率	—	233.3	190.8	—	—	—		
2	「みんなで守る郷土の自然」等地域の新規選定数(令和元年度からの累計値)【3月末時点】	目標値		2.0	4.0	6.0	8.0	10.0	地域	累計値
		実績値	1.0	1.0	4.0					
		達成率	—	50.0	100.0	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護ボランティアの活動日数は増加してきている(令和2年度に、新たに2団体が野生動植物巡視員として登録) 自然観察指導員スキルアップ研修には、多くの人が参加した(参加者34名)
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなで守る郷土の自然」等要綱で指定した地域や自然環境保全地域を守っている地元団体の活動が、希少野生動植物の保護や自然保護県民の自然保護意識の醸成に十分生かされていない。 地元の活動団体の活動の縮小が懸念される
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなで守る郷土の自然」等要綱で指定した地域や自然環境保全地域を守っている地元団体の活動が、希少野生動植物の保護や自然保護県民の自然保護意識の醸成に十分生かされていない。 地元の活動団体の活動の縮小が懸念される
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 要綱で指定した地域、関係団体の状況把握を行い、地域、関係団体の活動の支援、周知に努める 関係団体の新たな担い手となり得る人材の育成と継続的な研修の実施 県からの団体へ委託事業による自然観察会を実施し、地元自然保護団体の活性化を図る

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然公園管理事業			
目的	誰(何)を対象として	自然公園利用者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		62,438	52,585
			うち一般財源 (千円)	62,438	52,585
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の自然公園(国立公園、国定公園、県立自然公園)に県が整備した施設(遊歩道、駐車場、公衆トイレなど)について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等、施設の日常管理を委託。 ・快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。 ・自然公園の利活用と誘客促進のため、民間団体による施設・設備等の環境整備を実施し自然公園の魅力向上を図る。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然公園の利用者数(令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		12,800.0	14,900.0	26,500.0	37,500.0	47,900.0	千人	累計値
		実績値	11,760.0	8,824.0	17,343.0					
		達成率	—	69.0	116.4	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R2 21,318千人地点】→【R3 20,842千人地点】(対前年比:▲2.2%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえてし、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 ・眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、中国自然歩道の快適性や魅力向上を図った。 ・施設修繕を広く実施し、アフターコロナを見据えた受入環境の向上を図った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 ・草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。 ・ルートの間隔によっては、利用が低迷し、ほとんど人が通らない箇所がある。 ・市町村への管理委託の内容について見直す必要がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に施設の老朽化が進んでいる。 ・地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 ・対象区間が長く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。 ・労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が増嵩している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 ・管理を委託している市町村と連携し、地元市町村等の協力を得ながら管理運営をしていく。 ・満喫プロジェクト関連事業との連携や民間団体が実施する取組を通じて、安心・安全で快適な施設の整備を行っていく。 ・各施設の老朽化の状況や利用頻度等の調査を実施し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、利用が低調な施設については、今後のあり方を検討していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		中国自然歩道管理事業			
目的	誰(何)を対象として	中国自然歩道の利用者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		6,912	7,044
			うち一般財源 (千円)	6,912	7,044
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 県内の中国自然歩道のうち、県が整備した主にモデルコースとなっている歩道区間・施設について、地元市町村に除草、清掃やバロール等、施設の日常管理を委託。 快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。 パンフレットの作成・配布、県ホームページを活用して利用促進に向け情報発信する。 中国自然歩道の利活用と誘客促進のため、民間団体による施設・設備等の環境整備を実施し魅力向上を図る。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	中国自然歩道の利用者数(令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		580.0	680.0	1,230.0	1,760.0	2,280.0	千人	累計値
		実績値	502.6	405.3	796.4					
		達成率	—	69.9	117.2	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R2 21,318千人地点】→【R3 20,842千人地点】(対前年比:▲2.2%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえてし、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、中国自然歩道の快適性や魅力向上を図った。 施設修繕を広く実施し、アフターコロナを見据えた受入環境の向上を図った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。 ルートの間隔によっては、利用が低迷し、ほとんど人が通らない箇所がある。 市町村への管理委託の内容について見直す必要がある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象区間が長く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。 労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が増嵩している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村と連携し、地元市町村等の協力を得ながら管理運営をしていく。 満喫プロジェクト関連事業との連携や民間団体が実施する取組を通じて、安心・安全で快適な施設の整備を行っていく。 各施設の老朽化の状況や利用頻度等の調査を実施し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、利用が低調な施設については、今後のあり方を検討していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。		489,492	589,566
			うち一般財源 (千円)	485,016	578,146
令和4年度の取組内容	1. 三瓶自然館及びその附属施設について、指定管理者と協力して以下の事業を実施 ①企画展(春、夏、冬の3回)・自然観察会・天体観察会の開催 ②各種イベントを通じて自然に対する理解を深める取組の実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑤三瓶自然館及びその附属施設の整備と維持管理 2. 小豆原埋没林の保存対策と集客増 ①ガイダンス棟を活用した集客増対策 ②展示棟外の保存対策工事 ③保存状態のモニタリング				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・三瓶自然館の誘客対策として、人気の高い設備であるビジュアルドームの映映機等の改修を事業化し、鑑賞環境の向上を図る				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没林公園入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		162.0	162.0	162.0	162.0	162.0	千人	単年度値
		実績値	100.9	95.8	144.6					
		達成率	—	59.2	89.3	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・ガイダンス施設の改修工事により、令和4年2月21日から3月11日まで埋没林公園を休館 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和4年1月27日から2月20日まで三瓶自然館及び埋没林公園を休館								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・三瓶自然館開館30周年特別企画展を実施したところ、大変好評で前年度に比べ来館者が大きく増加した。 ・ビジュアルドームのスクリーンや座席等の更新、聴覚障がい者用字幕対応システムの導入を行い、視聴環境の向上を図った。 ・埋没林公園のガイダンス施設の展示内容を更新するとともに、展示棟に大型映像を導入し、埋没林の価値をわかりやすく伝えるように展示内容の強化を行った。
課題分析	①課題	・冬期や企画展を実施しない期間の来場者数が少ない。 ・外国人の施設利用が少ない。また、埋没林公園は低年齢層の来館者数が少ない。 ・埋没林の学術的価値が十分に伝えられていない。
	②原因	・展示施設等の改修を行ったばかりであり、施設の魅力アップについて十分に周知が図られていない。
	③方向性	・指定管理者と連携し、リニューアルした展示施設等を活用しながら、多言語化を図った、島根の自然を分かりやすく解説する施設として来館者の増加に向けて取り組む。 ・施設の特色、魅力を十分伝えるため、ホームページやSNS・メディア等を活用した広報の強化、観光協会等と連携したPRを行い、新規利用者の増加を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		64,722	142,739
			うち一般財源 (千円)	56,624	46,089
令和4年度の取組内容		(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ジオパーク推進機構の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子どもを対象とした体験学習の実施 ⑥隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定審査に向けた対応			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		令和4年度からDMOとして(一社)隠岐ジオパーク推進機構が発足したことにあわせ、他自治体との連携事業や体験学習について、ジオパークの認知度向上や観光誘客の取組の強化のため、県が直接執行する事業から(一社)隠岐ジオパーク推進機構の事業として一体的に実施できるように支援を行うこととした。			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV数	単年度値
		実績値	214,626.0	200,437.0	238,304.0					
		達成率	—	71.6	66.2	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定。次回再認定は令和3年度がコロナウイルス感染症の影響で令和4年度に延期 隠岐地域の観光入り込み客数H30年度168千人→R元年度167千人→R2年度92千人→R3年度123千人(観光動態調査結果) 交流人口数(推定入島客数)H30年度124千人→R元年度123千人→R2年度66千人→R3年度→72千人 隠岐を訪れる外国人観光客数H30年度911人→R元年度R元年度1133人→R2年度96人→R3年度38人(いずれも隠岐汽 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)はいずれも対応中または対応済 隠岐DMO組織の立ち上げ支援を実施
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ジオパークそのものの認知度向上が進まず、隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度もまだ低い 隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやツアーなどが不足している (一社)隠岐ジオパーク推進機構(隠岐DMO)が立ち上がったところであり、新たな推進体制をベースとして具体的な事業に取り組むことが必要
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 隠岐ユネスコジオパークの魅力ある自然景観や歴史などが観光資源として活用できていない 災害により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある ホームページ、インターネット、SNS等を利用した情報発信が不十分 (一社)隠岐ジオパーク推進機構基本構想にもとづく行動計画が未策定
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> (一社)隠岐ジオパーク推進機構が中心となり、4町村や県など関係機関と連携し、隠岐ユネスコジオパークの魅力向上のための環境教育・学術研究・ジオサイト整備や、来島者の満足度向上のための観光誘客の取り組みの強化、など具体的な事業に取り組む。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		109,926	136,205
			うち一般財源 (千円)	35,804	28,547
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の自然公園への誘客促進に向け、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成など、民間事業者等の取組を支援 ・国立公園などの県内自然公園への誘客を目的とした、デジタルマーケティングによる国内外へのプロモーション ・自然公園の魅力発信のため、県内自然公園の紹介動画の作成及びHPによる発信と、広域モニターツアーによる体験メニュー化の支援 ・受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備、景観阻害する樹木の伐採 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・広域モニターツアーの対象を県内全域に拡大し、体験のメニュー化を推進 ・リマーケティングリストを活用したデジタルマーケティングにより、より自然に関心のある層へアフターコロナを見据えたプロモーションを展開 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	21,000.0	40,000.0	65,000.0	85,000.0	人	単年度値
		実績値	64,997.0	7,589.0	3,306.0					
		達成率	—	12.5	15.8	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村内の宿泊者数を環境省が推計 ・環境省の数値から関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)の宿泊者数を推計(過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人、R元 64,997人、R2 7,589人) ・令和3年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、9,217人(前年と比べ36.8%減少) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援する補助金の公募を実施し、3事業を採択した ・自然公園等の遊歩道や案内看板の整備を実施し、受入環境の向上が進んでいる ・自然公園の魅力ある情報を掲載するため、ホームページの改修を行った ・国立公園などの豊かな自然を活用した体験ツアーのPRと旅行商品造成により誘客促進を図るため、旅行事業者を対象としたモニターツアーを行い、ツアー実施などの成果がでている
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われる自然体験プログラムが誘客になかなか結びついていない ・県内の自然公園の認知度が低い ・一部の地域では回復が見られるものの、新型コロナウイルス感染症による影響で来訪者は伸び悩んでいる
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を支援する補助金の情報が、対象となる事業者等に広く認識されていない ・魅力的な体験プログラム造成が進んでおらず、また来訪者が長期滞在して楽しめるメニューが少ない ・自然体験に興味があるターゲットに情報が届いていない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナを前提とした、商品の磨き上げや販売促進等、民間団体の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する ・自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。		5,039	8,669
			うち一般財源 (千円)	1,032	4,269
令和4年度の取組内容	・地域住民が参加する人の五感による湖沼環境評価や小中学生を対象とした流入河川調査を実施し、宍道湖・中海への興味関心と環境保全意識の向上を図る。 ・ラムサール条約の理念である「保全再生」「賢明な利用」「交流学习」を推進するため、沿岸市での一斉清掃や水鳥観察会、こどもラムサール交流会等を実施するとともに、宍道湖・中海の魅力発信する動画を作成し、配信するなど情報発信を行う。 ・コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境の保全再生及び地域活性化に取り組むことを目的に、民間団体や関係自治体を構成員とする協議会を設置し、協議会の取り組みを支援する。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・自転車で地域の観光スポットを巡りながら地域の魅力を体験する水鳥観察会を開催した。 ・参加者がそれぞれのペースで中海の自然の恵みや魅力に触れることができる日程を設定した中海バイク&ランを開催した。 ・大型水鳥類まとめサイトを構築し、情報発信の一元化を図った。				
1	上位の施策	Ⅲ-2-2(2) 世界に誇る地域資源の活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅵ-4-1(1) 豊かな自然環境の保全と活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数 【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0	231,630.0	271,823.0					
		達成率	—	84.0	96.4	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①五感による湖沼環境調査 モニター数(人・団体) R元:62 R2:85 R3:87と推移 ②小中学生等による流入河川調査 実施団体数(団体) R元:32 R2:37 R3:44と推移 ③中海宍道湖一斉清掃 参加人数(人) R元:6,665 R2:中止 R3:908と推移 ④ラムサール関連イベント 実施イベント数(回) R元:1 R2:1 R3:1と推移 ⑤大型水鳥関連イベント 実施イベント数(回) R元:8 R2:5 R3:8と推移 ⑥賢明利用関連普及啓発 広報数(回) R元:6 R2:10 R3:15と推移								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・宍道湖・中海一斉清掃など島根・鳥取両県連携事業や宍道湖・中海の魅力伝える映像やホームページによる情報発信などにより、宍道湖・中海の価値や魅力について一定の理解がされている状況
課題分析	① 課題	・宍道湖・中海の魅力価値が十分理解されているとはいえない。 ・五感による湖沼環境評価の新規参加者数の増加が少なく、また、調査地点によりモニター数の偏りが生じておりモニター不在地点が生ずる懸念がある。
	② 原因	・住民に宍道湖・中海の価値や魅力が十分に伝わっておらず、賢明利用に関する情報も少ない。 ・五感による湖沼環境評価の周知が十分でない。
	③ 方向性	・マリンスポーツ体験の映像制作や観光部局と連携した事業の取組などにより、宍道湖・中海の価値や魅力を発信し地域の活性化を図る。 ・五感による湖沼環境評価について、取組状況の紹介や、電子媒体を活用した応募や報告方法など参加しやすい工夫する。 ・国、関係市、関係部局と連携して、コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境保全の取組を進めるとともに、情報発信を強化する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

農林水産総務課

事務事業の名称		野生鳥獣保護対策事業			
目的	誰(何)を対象として	野生鳥獣	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。		194,394	276,364
			うち一般財源 (千円)	53,645	89,066
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 野生鳥獣の保護を図り、自然の恵沢を享受できる環境を整えるために、鳥獣保護区等の指定をする。 野生鳥獣の生態や行動等を考慮した対策を講じるため、鳥獣専門指導員を配置し、地域での対応や県民への啓発等を行う。 野生鳥獣の保護管理と有効な被害対策や狩猟の適正化を図るために、野生鳥獣の生態や行動等の調査を行う。 鳥獣保護行政の円滑な推進のために、鳥獣保護管理員の配置 鳥獣保護に対する理解を深めてもらうため、野鳥観察会、愛鳥週間の取組、傷病鳥獣の救護などを行う。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得るよう努める。 				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	鳥獣保護区指定箇所【3月末時点】	目標値		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	箇所	累計値
		実績値	80.0	80.0	80.0					
		達成率	—	100.0	100.0	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ■鳥獣保護思想の意識啓発 ○野鳥観察会の開催(年2回:参加者のべ37人) 愛鳥週間のポスター募集(応募:442点) ○傷病鳥獣の救護事業(R3:9件) ■ツキノワグマの保護・管理 ○捕獲個体(R3:221頭)については、県民の安全・安心の確保の観点から、「第一種特定保護管理計画」に定めるゾーニング手法により、放獣等(72頭)・殺処分等(141頭)を行った。 ■出雲北山地域のニホンジカの管理:適正水準の180頭に向け379頭の個体数調整捕獲を実施 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護思想普及啓発活動や傷病鳥獣の救護、保護管理のための生息状況の把握、分析・検討等取組を通じ、鳥獣保護に対する理解が得られ、計画どおりの保護区設定ができた。 ツキノワグマの管理・保護については、市町村との合意形成を図りながら、放獣・殺処分の対応、また被害管理を円滑に実施した。 出雲市北山地域のニホンジカについて、農業者等への指導支援を目的に、農業者団体を主体とする被害対策連絡会議を実施し、今後の被害対策について理解を得た。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区周辺での野生鳥獣による農作物被害が発生し、保護区の設定についての住民理解が得られにくくなっている。 ツキノワグマが誤ってイノシシ用のわなに掛かってしまう(錯誤捕獲)の発生が多く、捕獲者に対して錯誤捕獲をしない箱わなへの脱出口の設置の理解が得られにくい。 ツキノワグマの適切な保護管理を進める上で、次期計画策定の基礎となる最新の生息頭数が不明。 出雲北山地域のニホンジカの保護・管理について目標頭数180頭に達していない
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 設定した鳥獣保護区周辺の荒廃した里山や耕作放棄地に定着した野生鳥獣の出没が増加。 錯誤捕獲をしないための箱わなへの脱出口の設置は、本来の捕獲対象であるイノシシも脱出する不安の払拭が難しい。 出雲北山地域のニホンジカについては生息頭数が減少し、捕獲効率が落ちている
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得るよう努める。 鳥獣保護区及びその周辺での鳥獣による農作物被害に対しては、捕獲等の被害防止対策を推進。 錯誤捕獲を低減するための研修会などを実施し、放獣に対しても理解を得る。 鳥獣保護区の管理や鳥獣思想の普及啓発のため、鳥獣保護管理員の委嘱。 ツキノワグマの保護・管理は、捕獲個体の放獣と殺処分などバランスを取りながら取り組むとともに生息数調査を実施し、次期計画策定の基礎資料を得る。 出雲北山のニホンジカについては効率的な捕獲方法・体制を検討し、目標頭数180頭の達成を目指す。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

産地支援課

事務事業の名称		花ふれあい公園事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興		90,961	85,845
令和4年度の取組内容	花ふれあい公園の指定管理者に管理業務を委託し、以下の取組を実施。 ・四季折々の花の企画展示や体験企画など、県民が花に親しむ機会を提供 ・県の主力花き(キク、バラ、トルコギキョウ、ポタン、あじさい、シクラメン)を中心とした企画展示や県オリジナル品種の情報発信 ・花き生産者の研修や展示場所及び各種花き教室等への研修室の利用推進(R4. 4. 1開始)				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・SNSによる情報発信及び他施設との連携によるPRの強化 ・園内研修室の外部貸出へ向けた条例等の改正				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	販売額1,000万円以上の中核的経営体の育成数(R2年度からの累計)【当該年度4月～3月】	目標値		78.0	156.0	223.0	298.0	402.0	経営体	累計値
		実績値	(新規事業)	22.0	44.0					
		達成率	—	28.3	28.3	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内産の花苗、鉢花の植栽使用率99.2%								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・コロナ禍においての情報発信として、対象地域を山陰両県に絞り、また、屋外で過ごす入園者増の状況変化に合わせ、屋外での公園の楽しみ方の提案を行う等の対応をした結果、R3年度入園者数62,714人(昨年度比53%増) ・県の主力花き(キク、バラ、トルコギキョウ、ポタン、あじさい、シクラメン)の展示、紹介等の回数は6回(延べ125日)の状況
課題分析	① 課題	・花きの担い手育成に直接的に寄与しない ・花きの消費拡大、生産振興に直接的に寄与しない
	② 原因	・公園としての利用が主で花に親しむ機会の提供にはつながっているものの、花き生産者の研修や展示場所としての利用が少ない
	③ 方向性	・花き品評会等での利用・展示や若手花き農業者等の研修施設として、研修室の外部への貸出を推進 ・県のオリジナル品種等の情報発信による、島根の花きの価値の底上げと、それに伴う販売額の増加

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

水産課

事務事業の名称		宍道湖自然館管理運営事務			
目的	誰(何)を対象として	一般来館者、一般県民	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。		152,141	123,938
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止対策を実施し、感染リスクを下げる展示手法を取り入れた、安心安全な施設サービスの提供。 ・指定管理者が隣接地で運営する宍道湖グリーンパーク(鳥や昆虫の観察等)と連携した活動の推進及び情報の発信。 ・関係機関と連携した教育普及プログラムの開発協議の実施。 ・今後の展示設備の在り方について、指定管理者と連携した施設整備及び改修の検討。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外スペース(お弁当広場)の整備やレクチャールームの音響・映像設備の更新を行い、また定期的に新たな展示を導入することで、展示の魅力を増進した。 ・パネルの館内掲示や、パーテーションを活用した感染症予防対策を実施し、感染リスクを下げる取組を積極的に行った。 				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	ゴビウス入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	人	単年度値
		実績値	138,820.0	74,505.0	97,622.0					
		達成率	—	62.1	81.4	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館実施。(令和4年1月27日～2月20日) ・感染拡大の恐れがあるイベントは中止または規模縮小し、館内の感染症拡大防止対策を実施の上、感染リスクを下げる展示手法を取り入れた安心安全な施設サービスを提供した。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外スペース(お弁当広場)の整備やレクチャールームの音響・映像設備の更新を行い、また接触による感染リスクを下げる展示手法を取り入れた。(壁面を利用したキッズコーナーの設置、自動スタンプ機を利用したクイズの実施。) ・ソーシャルディスタンスの確保を呼びかけるオリジナル注意喚起パネルの館内掲示や、パーテーション設置によるレクチャールームスペース拡充対策を継続し、感染症予防対策を積極的に行った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集客施設として魅力を支える展示設備が陳腐化。 ・指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための人員体制が不十分。 ・団体利用時に使用できるレクチャールームが一箇所しかないため、学校等の団体受け入れを制限しなければならない状況が続いている。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」以外の展示設備は、平成13年度の開館当初から未改修。 ・館内施設の老朽化が進み、修繕費のランニングコストが増加。特に給排水・電気設備等の機械設備の老朽化が著しく、緊急修繕が必要な状況が発生。 ・教育普及サービスを求める団体客の受け入れに必要なレクチャールームのスペースが不十分。 ・館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を広げているが、対応できる職員数が限定的。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の多くを占めるリピーターの満足度向上を目指し、定期的に新たな展示を導入。 ・限られた職員による効率的な運営を実施するとともに、職員のさらなるスキルアップを推進し、サービス向上や地域貢献に対応できる職員を育成。 ・関係機関との連携及び地域住民、ボランティアとの関係強化を図り、新たな教育普及メニューの開発及びサービスの充実を実施。 ・館内施設の老朽化の現況を調査・確認し、長寿命化計画に盛り込むことで、施設の安全維持のために必要な修繕の計画的な実施。